

令和元年度官民研究開発投資拡大プログラム (PRISM) の実施方針

令和元年11月14日
ガバニングボード決定

「官民研究開発投資拡大プログラム運用指針」(最終改訂2019年3月28日 ガバニングボード決定)に基づき、令和元年度のPRISM対象施策、配分額、実施期間を次のとおり定める。

対象施策の実施にあたっては、「バイオ戦略2019」の策定に参画した内閣府及び関係省庁と連携することとする。

研究開発型 配分額計: 2,124 百万円

バイオ技術領域 配分額: 1,924 百万円

対象施策	概要	府省庁名	配分額 (百万円)	実施期間
糖尿病関連ヘルスケア情報の基盤構築及び産業利用に向けたヘルスケア情報の基盤構築	健常者と糖尿病患者の糞便サンプルをメタゲノム・メタボローム解析・分析することにより、糖尿病の個別化予防やヘルスケア産業のための公開DB及び人工知能(AI)の機能強化を図る。また、健常者の認知症に関するバイオマーカー、エピゲノム等を解析し、認知症予防食品開発に資するDBを強化する。加えて、これらのDBを活用・分析することにより効果的に産業利用が可能であることを実証し、ヘルスケア分野における機能性食品等市場の拡大を目指す。	厚生労働省	538	原則として、 本年度限り
「パスウェイ型シミュレータ」の開発及びバイオデータ連携基盤の構築	マイクロバイオームに着目し、その健全化に資する成分を効率的に生産する植物の育種へとつなげるパスウェイ型シミュレータを開発する。併せて、未活用データを含め散在する多様なバイオ関連データを柔軟に連携・運用できる連携基盤を構築する。	農林水産省	500	原則として、 本年度限り
既存育種データの一元化データベースの構築及びゲノム編集標的配列予測ツールの開発	国研、公設試験場、大学等が保有する育種に関するデータを一元化するとともに、より高確率な作物ゲノム編集を可能とする標的配列予測ツールを開発し、多様なニーズに対応した品種開発のためのスマート育種データ基盤の構築を加速する。	農林水産省	347	原則として、 本年度限り
バイオ分野の基礎研究における機器共用の促進	「バイオ戦略 2019」等で指摘されている研究設備・研究支援人材の共用化・拠点化を推進するため、ハイエンド型のクライオ電子顕微鏡を整備・共用する。これにより、様々な分野での民間活用及び高度な人材育成を促進し、新たな民間研究開発投資の誘発を図る。	文部科学省	509	本年度限り
木材需要拡大に資する大型建築物普及のための技術開発	「バイオ戦略 2019」における「木材活用大型建築・スマート林業」市場領域の定着・拡大のため、木材の大量活用が期待できる高層木造建築物について汎用可能な構造設計例等を開発し、民間事業者等による高層木造建築物の実現加速化を図る。	国土交通省	30	原則として、 本年度限り

(注)「原則として、本年度限り」としているのは、「PRISMの今後の在り方に関する検討会」の議論の結果、来年度以降の予算措置がされない場合があるため。

AI技術領域 配分額:200 百万円

対象施策	概要	府省庁名	配分額 (百万円)	実施期間
スマート介護予防プラットフォームの構築	一般介護予防事業における「通いの場」等において、ICT、AI 等を活用したサービスを実証し、全国に効果的な取組を拡げる。また、実証で得られたデータ等を活用し、産官学で連携し、AI 等を用いた効果的な介護予防サービス等を研究開発する。加えて、サービス提供者等が共通で用いるプラットフォームを開発することで、民間主体の競争的な取組を活性化する。	厚生労働省	200	原則として、 本年度限り

(注)「原則として、本年度限り」としているのは、「PRISMの今後の在り方に関する検討会」の議論の結果、来年度以降の予算措置がされない場合があるため。